

# YMS 2019年度 解答速報

## 日本大学医学部 A 方式



### 【生物（解答）】

#### 1

- 問1 1・2-⑤・⑦（順不同）  
問2 3-②  
問3 4-③  
問4 5-①, 6-①, 7-②, 8-①,  
9-②

#### 2

- 問1 10-①, 11-①, 12-⑥, 13-②  
問2 14-①, 15-①, 16-③, 17-⑧  
問3 18-④, 19-③, 20-⑧  
問4 21-③

#### 3

- 問1 22-⑤  
問2 23-⑥  
問3 24・25-②・③（順不同）

#### 4

- 問1 (1)26-⑦, 27-③  
(2)28-⑥, 29-④  
(3)30-⑥, 31-④  
問2 32-②  
問3 33・34-②・④（順不同）  
問4 35-④  
問5 36-⑤, 37-②  
問6 38-①

#### 5

- 問1 39-①, 40-④, 41-⑨, 42-⑧,  
43-②, 44-⑥, 45-⑦, 46-③  
問2 47-①  
問3 48-③

## 【生物（講評）】

例年通り大問 5 題（2017 年度のみ 6 題）であった。高度な考察問題や煩雑な計算問題の割合が低く、知識問題の割合が高いため、解答に時間はかからないが、選択に戸惑う問題が幾つか含まれており、そこで差がつく。

**1** DNA 断片の塩基配列に関する問題。PCR 法、制限酵素、塩基配列の決定法について問われた。慌てずに処理すれば正解できるが、少し時間を取られる。なお、DNA の塩基配列の決定法については、2014 年度入試でマクサム・ギルバート法が出題されている。

**2** 神経系の反応に関する問題。問 1・問 2 が計算問題であり、情報処理能力が問われる。問 3 は横紋筋の収縮に関する基本的な知識問題。問 4 はアセチルコリン分解反応の速度に関する問題で、酵素の反応速度についての理解があれば容易い。

**3** M 期促進因子に関する実験考察問題。遺伝子発現やホルモンに関する知識を用いて、リード文と実験結果を読み解く力が試された。差が付きやすい。

**4** 生物が行うエネルギー変換に関する問題。光合成と呼吸について、その相違点を比較して理解できていれば難しくはないが、曖昧な知識があると間違えやすい。2015 年度入試の大問 2 で、光合成に関しての類題が出ているので、過去問で対策していた受験生は答えやすかったであろう。

**5** 動物の系統関係に関する問題。系統樹を理解して覚えていれば容易に解答できる。**YMS** の直前講習で類題を解いたので、受講していた受験生は有利であった。

マーク数は、昨年度が 39 であったのに対して、今年度は 48 に増加しており、解答にやや時間を取られる問題が数題出題されたので、全体としてはやや難化したといえるが、それでもやはり時間的には余裕がある。一次合格には 75%以上の得点が望まれる。

### 二次で勝つならYMSの

### 二次試験対策

2/15金  
17:00 ~ 19:15時

日大A

対策  
内容

二次試験の要点解説
個人面接対策
小論文対策

二次の  
ポイント

日本大学の面接では、一般的な質問の他に時事問題や医療問題なども問われます。本講座では想定される質問の要点を押さえ、本書に即した面接演習を行います。また実際の試験と同じ時間設定で小論文を執筆し、添削もその場で行います。

【申込方法】・一次試験合格者が対象です。  
・受付開始は各大学ともに一次の結果発表以降となります。  
・お電話(03-3370-0410)でご予約下さい。

申し込み受付中です。詳細はYMSホームページをご覧ください。お電話にてお問い合わせください。